

「地域連携推進会議」

令和7年12月9日火曜日の午後、希望学園食堂において「地域連携推進会議」が開催されました。

障害者支援施設等の運営にあたっては、地域と施設等が連携をすることにより、利用者と地域との関係づくりや地域の方への施設等や利用者に関する理解の促進等を目的として、施設等の外部の方を構成員とした「地域連携推進会議」を定期的に行うことが義務付けられています。

出席者は（委員）旭川障害福祉課職員、地域住民代表、民生児童委員、障がい者支援施設長、前障がい者支援施設長、利用者家族の会代表、利用者代表（事務局）施設長、事務長、統括課長、支援課長です。

社会福祉法人新生会および希望学園の成り立ちやその使命の説明にはじまり、施設内の視察や支援内容に関して、説明がなされました。今回が初めてということで、細部までの説明には及びませんでしたが、55年の概要をお伝えしました。

出席者からの意見感想は、下記のとおりです。

＊見学して、居室の中がきれいに片付いていると感じました。最小限の必要なものがあるのだと思うが、施設内が暖かいのは良いと思います。なんでも相談では相談員としてなかなか上手くできていなかったと感じていました。利用者さんの言葉を十分に理解できなかった。自分一人で利用者さんの意見を聞いて、解決できるよう良い方へ持っていくことは難しいですが、何を伝えたいかわかる方が一緒に聞いてもらって、どう対応すると良いか教えていただけると良いと思います。（地域住民・町内会役員）

＊初めてづくしでした。希望学園を知っていたつもりだったが、こんなに大きかったのかと驚きました。施設内の暖房が充実していると思いました。以前、「きぼうまつり」で出店の焼き鳥を焼きに来て参加していた頃が楽しかったです。コロナになってから出来なくなって、コロナ明けてからも縮小したと聞いて残念に思っていました。また参加したいと思う。何かで皆さんの力になればと思います。（地域住民・民生児童委員）

＊見学して新鮮な気持ちでした。同じようなサービスを提供していますが、それぞれに利用者さんにニーズ・想いがある、それに沿うからこそ施設によって違うところがあるのだと思いました。地域の方々に知っていただくことの必要性を感じました。（近隣の施設長）

＊家族の会の会長の言葉で、利用者さんの年齢が上がって家族も年齢が上がっているとありましたが、家族の会もこれから世代交代をしていかなくてなりません。兄弟、そしてお孫さんの代となってきます。今まで接点がない分、難しくなると思いますが利用者さんは高齢化になると医療も必要となってくるので、相談しながら支えていく必要があると思います。（福祉見識者）

＊他の利用者さんと色々やって楽しかったです。（利用者代表）

＊改めて機関紙、素晴らしいと感じた。作るのはとても大変だと思う。いつももらっているが、こうやって資料としてまとめてもらって見て、改めて感動しました。見とれていました。（家族会代表）

＊地域連携推進会議は今年から年に1回以上開催を義務付けされています。高齢者分野では以前から取り組まれていました。地域との連携を図る機会となるように開催しています。グループホームの連携会議には何件か出席したが、入所支援施設での会議は初めてでした。災害などの対応についてはどうなっていますか？…（回答）旭川福祉施設協議会の連絡網ホットラインがあります。（旭川市担当者）